浴上で蒸発乾固する。熱湯10mLを、内壁を洗いながら加え、さらに、15分間加温する。放冷した後、水を加えて約20mLとし、100mLの全量フラスコに移す。ビーカーを水20mLずつで３回洗い、洗液は全量フラスコ中に合わせ、更に水を標線まで加えて100mLとし、試料溶液とする。別に、エトパベート標準品を乾燥し、その約0.03ｇを0.0001ｇの桁まで量り、その数値を記録し、メタノールを加えて溶かし、100mLの全量フラスコに入れ、更にメタノールを標線まで加えて100mLとする。この溶液10mLを全量ピペットを用いて量り、100mLの全量フラスコに入れ、水を標線まで加えて100mLとする。この溶液10mLを全量ピペットを用いて量ってビーカーに入れ、１mol／Ｌ水酸化ナトリウム試液10mLを加え、以下試料溶液の場合と同様に操作して標準液とする。また、別に、水10mLを全量ピペットを用いて量ってビーカーに入れ、１mol／Ｌ水酸化ナトリウム試液10mLを加え、以下試料溶液の場合と同様に操作して空試験液とする。共栓遠心沈殿管⑴から⑶までを用意し、沈殿管⑴に試料溶液10mLを、⑵に標準液10mLを、⑶に空試験液10mLをそれぞれ全量ピペットを用いて量って入れ、それぞれの沈殿管につき、次の操作を行う。１mol／Ｌ塩酸２mL及び新たに調製した亜硝酸ナトリウム溶液（１→1,000）２mLを全量ピペットを用いて加え、振り混ぜた後、２分間放置する。次に、新たに調製したスルファミン酸アンモニウム溶液（１→200）２mLを全量ピペットを用いて量って加え、振り混ぜた後、２分間放置する。新たに調製したＮ－（１－ナフチル）－エチレンジアミン二塩酸塩溶液（１→1,000）２mLを全量ピペットを用いて量って加え、振り混ぜた後、10分間放置する。塩化ナトリウム４ｇ（3.5～4.4ｇ）を加えた後、ｎ－ブタノール10mLを全量ピペットを用いて量って加える。２分間激しく振り混ぜた後、遠心分離し、上澄液をとる。⑴及び⑵の溶液につき、⑶の溶液を対照液として、波長555nm付近の極大波長における吸光度A_T及びA_Sを測定する。

エトパベート（$C_{12}H_{15}NO_4$）の量（mg）

＝エトパベート標準品の量（mg）$\times\frac{A_T}{A_S}\times 2.5$

－対応する被ジアゾ化性物質の量（mg）×1.215－対応するフェノール性物質の量（mg）×1.134

⑷　保存の方法の基準

ａ　アンプロリウム

密閉容器に保存すること。

ｂ　エトパベート

密閉容器に保存すること。

イ　製剤

⑺　成分規格

本品は、アンプロリウム製造用原体及びエトパベート製造用原体に、賦形物質を混和した小片又は粉末である。

含量　本品は、定量するとき、表示量の90～110％に相当するアンプロリウム（$C_{14}H_{19}ClN_4\cdot HCl$）及びエトパベート（$C_{12}H_{15}NO_4$）を含む。